

令和6年度 前期学校評価 報告書

鬼北町立好藤小学校

令和6年度7月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
1 家庭・地域連携	学校・家庭・地域が連携した教育の推進	①保護者や地域住民と連携して教育活動を行っている。	児童、保護者、教職員、地域アンケートの肯定率80%以上	A	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇全体的に肯定率99%と高い評価を得ている。 ◇地域コーディネーターの活用により大変充実している。地域との連絡調整等うまく機能している。 ◇家庭での会話について2評価の児童、保護者がいる。 ◇総合的な学習の時間等には、地域の方々の御協力で見学や体験活動を通して充実した学習ができた。 ◇地域へ出掛けたり、地域講師に來校していただいて学習を進めたりする機会がとても充実して、地域へ開かれた学校が実現できている。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の方の御協力で有意義な学習や活動ができています。今後も交流学習や体験学習を継続していき、人と関わる楽しさが味わえる活動にする。 ◆地域人材が持つ知識や御経験に、大変助けられています。教えていただいたことを基にして、児童自身が更に探究活動ができるよう情報を2学期からの指導に活用していく。 ◆1学期末は、スマホ・ゲームの使用ルールづくりやブックトーク等に関して、学校から親子で考える話題を出してきた。今後も親子で話しやすい話題を提供し、家族団らの促進を図る。 	<p>児童(地域との交流)</p> <p>保護者(地域との交流)</p> <p>教職員(地域との交流)</p> <p>地域(家庭・地域との連携)</p> <p>児童(家庭での会話)</p> <p>保護者(家庭での会話)</p> <p>教職員(参観日出席率80%以上)</p>	◎	89	11	0	0	100	3.9	99
		②ホームページや、学級通信・学校だより、CATV等で学校の取組を発信している。	保護者、教職員、地域アンケートの肯定率80%以上	A	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇肯定率が96%という高い評価となっている。充実した情報発信ができていますと考える。 ◇それぞれの立場で、学校での活動を発信している。 ◇計画的にCATVとの連携を図り、好藤小の取組を発信する機会が多くなった。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆家庭でのコミュニケーションのきっかけとなるように、学校での児童の様子や学習の内容、学校での取組などについて、情報発信をしていく。 ◆地域の方へCATV等で学校の取組を紹介していく。 ◆行事が立て込んだり、放課後体育指導が入ったりするとどうしても学級通信を作成する時間が取れなくなるが、今後も紙媒体、画像、映像等を積極的に活用して、できるだけタイムリーな話題となるよう情報発信に努める。 	<p>保護者</p> <p>教職員(HP更新)</p> <p>教職員(通信)</p> <p>地域</p>	◎	79	31	0	0	100	3.7	
				◎	80	20	0	0	100	3.8				
				◎	83	0	17	0	83	3.7				
				◎	100	0	0	0	100	4.0				
						◎教頭 ○学級担任								
						◎教頭 ○学級担任								
	学校運営協議会委員の所見				<ul style="list-style-type: none"> ・地域とよく連携出来ている。 ・概ね高い評価となっている。 ・児童は、交流学習や体験学習を大変楽しんでいるように思う。地域との交流や連携も出来ていると思うので、今後もぜひ続けてほしい。 ・子どもたちの会話の内容が学校での体験学習のことが多くなった。 ・学校だより等で学校での教育活動の取組がよりいっそう手に取るように分かる。 	学校の対応							<ul style="list-style-type: none"> ・交流学習や体験学習を通して、子どもたちは学校での学びをとても楽しんでいる。学校だよりなどを通じて、学校での取組が保護者や地域の方に理解されており、今後も地域との連携の取組を継続して行っていく。 	

令和6年度 前期学校評価 報告書

鬼北町立好藤小学校 令和6年度7月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
2 安全・安心な学校	安全・安心な教育環境の整備	①家庭・地域と連携して児童の安全な登下校に努めるとともに、災害等に適切に対応する安全教育を推進している。	児童、保護者、教職員、地域アンケートにおける肯定率 80%以上	A	【考察】 ◇全体の肯定率が99%という高い評価となっているが、2評価の児童がいる。 ◇児童は、避難訓練に真剣に取り組んでいる。 ◇特に教職員の4の評価が低くなっており、その結果が児童の2評価に表れていると考える。 ◇4月の地震以降、余震の際には、児童は揺れに素早く対応し、安全確保の姿勢を取ることができている。 ◇教職員が危機管理意識を持ち、災害時が起きた時の対応や役割分担などについて全職員でしっかりと共通理解を図る必要がある。 ◇地域の方々に、玄関周辺やプール裏の草刈りを行っていただき、見通しが良くなった。大変感謝している。 【改善方策】 ◆奉仕作業では、地域の方の出席が多く、学校を支えていただいている。学校が地域でできることも考えてゆく。 ◆4月の地震を教訓に避難訓練をより実践的なものにしていく。 ◆登下校時、多くの家庭・地域の方に見守り活動をしていただいている。いただいた情報を学校安全に反映させ今後も児童が、安全な登下校ができるよう努めていく。	児童 ◎ 94 6 0 0 100 3.9 保護者 ◎ 75 25 0 0 100 3.7 教職員 ◎ 50 50 0 0 100 3.5 地域 ◎ 87 13 0 0 100 3.9	◎生徒指導 ◎教頭 ◎学級担任	100						
		②やりがいを感じるとともに勤務時間を意識した働き方を推進している。	教職員アンケートにおける肯定率 80%以上	A	【考察】 ◇勤務時間を意識した働き方の肯定率が100%であるが、事務処理等の時間確保が必要である。 ◇今学期、時間割の在り方と放課後体育指導を合わせて工夫することで、よりよい働き方の糸口を見いだせた。 【改善方策】 ◆職員全員で働きやすい環境を考えていく。 ◆時間で区切るなど計画的に処理できるよう心掛ける。 ◆教職員が糊代を大切に仕事に心掛け、チームで取り組む。	教職員 ◎ 33 67 0 0 100 3.8	◎教頭 ◎学級担任	100						
		③感染症対策を行っている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率 80%以上	A	【考察】 ◇コロナが5類に移行され、個々で感染症への対策の在り方が異なってきていると考えられる。 ◇熱中症に対して、警戒アラートを基に教職員で共通理解を図り、児童の活動が安全に行えるように適切な対応を図ることができた。 ◇コロナをはじめとする感染症の流行時における他の学校や施設の訪問等の対外行事の持ち方については、慎重に対応することが大切である。 【改善方策】 ◆手洗い・うがいなどの基本的な感染症対策については、引き続き意識付けを行っていく。 ◆また、いつでもマスクが着用できるように持参をお願いする。 ◆集団の場で何らかの感染症が発生した際には、できるだけ皆が共通理解の下、感染症拡大防止の動きを取れるようにしていく。そのための情報発信もする。	児童 ◎ 75 19 6 0 94 3.7 保護者 ◎ 27 25 18 0 82 2.8 教職員 ◎ 33 67 0 0 100 3.3	◎養護教諭 ◎学級担任	92						
	学校運営協議会委員の所見	・児童たちも先生方も真剣に取り組まれていて、大変良い。今年は、特に気温が高いので健康には十分御留意いただきたい。 ・家庭内で安全について話をしているので、ある程度の心構えはできていると思うが、予想外の出来事に対して命を守るという行動がどれだけできるかなど考えてしまう。いついかなる時に起こるかわからない「南海トラフ」がとても心配である。 ・登校時には見守りの方々のおかげで安心して子どもを送り出せている。 ・感染症対策については、家庭や個人で考え方に差があると思うが、大きな流行があったときは、一時的に統一をした対応をすることも必要。(マスク着用など) ・児童をはじめ、家庭で体調をこわしている人がいないか、分かる範囲で把握に努めていただきたい。				学校の対応	・学校での安全対策に理解を得ている一方、自然災害や感染症など、より一層の備えをしていく。 ・猛暑や南海トラフなど、不測の事態に備えた教育を充実させていく。 ・感染症対策については、家庭での考え方の違いがあるものの、学校全体で統一した対応が必要となる場合があるので、これまで同様、保健だよりやHPで呼び掛けを継続する。							

令和6年度 前期学校評価 報告書

鬼北町立好藤小学校 令和6年度7月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均
3 確かな学力	確かな学力を育てる教育の推進	①ICT機器を効果的に活用し、学習への興味や関心を高めたり、個に応じた指導の充実を図ったりしている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇全体肯定率は95%と高い評価であるが、児童、保護者共に1・2評価がある。 ◇児童は、日常的にタブレットを使用しているため、タブレットを活用したテストにも慣れ操作に時間がかからなくなっている。 ◇調べ学習、プレゼンテーション、意見・感想をまとめる学習等は、タブレットの活用の定着が図られてきている。 【改善方策】 ◆ICT活用状況アンケートの結果や各校のICT活用の取組を共有し、効果的な活用方法を取り入れる。また、タブレットを活用した家庭学習を積極的に行うなど、タブレットの効果的な活用方法についての研修をする。 ◆EILSを活用したタイピング検定や計算検定の時間を設けることで、児童の学力向上への意欲や意識を高める。 ◆3年生以上の児童でもローマ字入力やどうしても苦手な児童には、かな入力・音声入力・フリック入力等をさせることで負担感を軽減させていく。 ◆端末を活用したドリル学習やまとめ学習、話し合い学習等の一層の充実を図る。	児童 ◎ 80 11 6 3 92 3.7 保護者 ◎ 58 34 8 0 92 3.2 教職員 ◎ 67 33 0 0 100 3.7	95	◎学力向上 ◎情報教育 ◎学級担任					
		②基礎・基本が確実に定着し、学力が伸びている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇児童アンケートでは2の評価、保護者アンケートでは3や2の評価があり、学習に困難さや悩みを抱えた児童がいると思われる。 ◇単元テストの結果からは、基礎・基本が身に付いている児童が多いが、読解力や表現力には個人差がある。 【改善方策】 ◆漢字検定を目標に、漢字練習を行う。 ◆navimaやみんなの学習クラブを活用し、前学年の内容や既習事項の復習を引き続き行い、基礎・基本の定着を図る。 ◆対話を意識したり、対話を促す発問を心掛けたりする。他校との交流学習やリモート交流等を行い、多様な考えに触れる機会を設ける。 ◆望ましい生活習慣、学習習慣の定着とも連動させながら、学力向上を図る。	児童 ◎ 86 11 3 0 97 3.8 保護者 ◎ 27 64 9 0 91 2.8 教職員 ◎ 60 40 0 0 100 3.6 教職員(単元テスト) ◎ 80 20 0 0 100 3.8	97	◎学力向上 ◎学級担任					
		③個に応じた家庭学習の指導を行い、家庭学習習慣が身に付いている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇児童アンケートでは2の評価、保護者アンケートでは2や1の評価があり、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いが、個人差があると思われる。 ◇放課後子ども教室で宿題を終わらせて帰宅する児童が多いため、保護者が児童の実態を把握しづらいのではないかとと思われる。 【改善方策】 ◆個に応じた家庭学習を工夫する。学級通信等で、宿題の確認や土日、休日の家庭での学習時間の確保について啓発をする。宿題の量や学年、個に応じた課題の在り方を見直す。 ◆つまずきの顕著な学習内容(特に算数)がある場合は、保護者に伝達を行い、家庭での確認をお願いする。	児童 ◎ 70 22 8 0 92 3.6 保護者 ◎ 36 58 3 3 94 2.8 教職員 ◎ 50 33 17 0 83 3.3	90	◎学力向上 ◎学級担任					
		④読書に親しんでいる。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇学校での読書への取組は充実が図られているが、家庭での読書について肯定率が低い保護者の回答が18%と多い。 ◇家で読んでいるが、その姿を保護者が見ていないことが多いのではないかと。 ◇毎朝の読書タイムが役立っている。今後も続けてほしい。 【改善方策】 ◆親子読書タイム(今週読んだ本について語り合う時間)をもうける。 ◆チャレンジカードにみきちゃん通帳の読書冊数を入れる。 ◆eスタで読み取ったお気に入りの記事について、紹介し合う機会を検討する。 ◆学級通信等で児童の読書活動の様子や「おすすめの本」を紹介するなどして、保護者に学校の取組や児童の読書活動の様子を積極的に紹介していく。	児童 ◎ 78 14 8 0 92 3.7 保護者 ◎ 33 49 12 6 82 2.7 教職員 ◎ 50 50 0 0 100 3.5	91	◎図書館主任 ◎学級担任					
学校運営協議会委員の所見		・タブレットの活用は、今後子どもたちが社会に出たとき必ず必要になってくる。タブレットの使用法について保護者と連携して進めてほしい。 ・「体験に勝る学習なし」と言われるように、学校でのことを話してくれる子どもたちの目の輝きが違う。楽しさ・感動・記憶等が繋がっている気がする。 ・文字を書くことや計算することなど目に見えて成長しているので学力向上ができてきている。 ・児童・保護者に一定数低評価があるが、個人差や家庭での考え方・捉え方の差があると思う。				学校の対応		・タブレット学習の導入や体験学習の有効性など、学力向上に向けた様々な取組を今後も継続して行う。 ・体験学習を通じて子どもたちの学習意欲が高まっている。今後も継続していく。 ・学習に対する評価は、子どもや家庭によって異なるが、個に応じた指導を保護者と連携して行う。					

